

# PBL 型授業における学生スタッフの効果について

竹内光悦\*1・末永勝征\*2

Email: takeuchi-akinobu@jissen.ac.jp

\*1: 実践女子大学人間社会学部

\*2: 鹿児島純心女子短期大学

◎Key Words 学生ファシリテーター, グループワーク, 社会調査

## 1. はじめに

PBL 型授業では学生同士のグループワークも多い。この場合に教員のグループワークへの関与は学生同士のみによる議論の妨げになる場合もあり、また教員の教え過ぎ指導の問題にもつながるケースもあり、参加者の先輩など、身近で経験をもつ学生がファシリテーターとして、グループワークへの介入の方が望ましい場合もある。このことに関して、オンライン/オフラインに関わらず学生ファシリテーターの存在の有用性については、既にいくつかの研究結果が示すように、受講生からの支持も高い。一方で、学生ファシリテーターにおいても、グループワークのサポートという立場を体験することで、自身の成長を期待でき、これらのサポート方法についても標準化、最適化を目指すことは有益ではあるが、このことに関する研究はまだ十分とは言い難い。

本研究では社会調査実習における受講者が感じる学生スタッフの効果に加え、学生スタッフからみた課題を報告する。

## 2. 社会調査実習における学生スタッフについて

本節では本研究の対象とする社会調査実習および収集したデータの詳細について述べる。

### 2.1 社会調査実習の授業内容について

著者の一人が担当する社会調査実習は社会調査協会(2022)が認定する「社会調査士」を取得するために必要な「社会調査を実際に経験し学習する科目」であり、90分×30回相当が決められている。著者の一人が所属している大学では100分授業のため、100分×28回でこの授業を構成している。

この科目では、社会調査協会(2022)の「社会調査士科目認定に関わる授業内容と確認項目」に書かれているように、『調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程について、体験を通じて学習する科目で、中心となるものは量的調査あるいは質的調査のどちらでもよい。調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施(調査票の配布・回収、面接等データ収集)、インタビューなどのフィールドワーク、フィールドノート作成、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成。また、実際にアプリケーション・ソフトを利用した量的データの統計的分析の実習、もしくは、質的データの分析ないし事例研究を行う実習を含む。』(社会調査協会、

2022)を内容として含み、著者らの一人の担当する授業では、量的調査を主とし、前期で調査企画から実査の実施、データ収集までを行い、後期でデータ分析および報告書作成を行う。後期の分析次第では補足的にインタビュー調査などの質的調査も行うこともある。

著者らの一人が担当する社会調査実習の特徴として、社会調査を通じ、プレゼンテーション能力の育成も意識し、前期・後期ともに、中間発表、最終発表と2回の発表を行っている。特に後期の最終発表では、毎年2回に分けて、担当教員以外のゲスト教員を招いて、最終報告会を実施する。これにより、調査実施の際の過程を知っている担当教員だけだと、気づきにくい点の指摘も行うことができ、最終の調査報告書作成の参考にしている。また、学生が主体的に活動し、グループワーク力の向上を目指し、毎回の授業の半分は社会調査に関する知識・技能に関する講義を行い、残りの半分はグループワークを行っている。グループワークでは、KJ法を用いた調査課題の抽出や先行研究分析、仮説構築や調査設計を含めた調査企画、また調査の実査や収集データの分析なども含め、すべて、グループで一通りを体験させ、主体的に学べる環境を作ることを心掛けている。特に教員の教え過ぎ指導を避けるために、毎回の作業目標は示すが、それ以外は質問に答えることを主として、可能な限りグループで考えることを指導している。なおグループワークにおけるフリーライダー問題などにも注意喚起を行い、毎回の授業の最後にはワークの議事録を提出させ、グループの進捗状況を把握している。

該当講義は2008年から毎年開講され、受講者数も多いときは100名を超える年度もあるが、おおむね60名程度であり、1教員、1クラスで開講している。なおグループは2名以上が原則であるが、おおむね3名から6名程度の人数で構成され、ほぼ毎年、途中で履修取りやめはならず、前期・後期を通じた同一グループでの活動を行っている。履修ガイダンスの際にその旨を伝え、また前期でデータ収集、後期でデータ分析及び報告書作成という形式から、年度をまたいだ受講は受け付けられないなどの授業条件も提示している。ごくまれにグループ内でのトラブルは発生するが、データ自体は前期で取得済みであることから前期から後期においてグループの再構成も可能であることを提示しながら、10年以上開講しているが、いまだに再構成を希望したグループはない。

なお新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020・2021年度は一部でオンラインでの双方向型授業(遠隔授

業) となったことに注意されたい。

## 2.2 社会調査実習における学生スタッフの活動

該当科目における学生スタッフは、毎年 1 名から 2 名おり、その前年度に該当科目を受講している。学生スタッフの活動は、グループワーク時の質問受付や毎回の議事録へのコメント、また発表時の運営サポートなどを行っている。受講者からすれば、身近な先輩であり、前年度の受講者でもあることから、専門家である教員からの指導よりも、ファシリテーターとしてグループワークに参加し、より人間関係に関することも相談できる親しみやすい存在と言えよう。また学生スタッフ自身もサポートする立場での参加であることから、自身の成長も期待できることから、本研究ではこの学生スタッフの効果を測り、標準化・最適化を目指す。

## 3. 学生スタッフに関する調査

本節では本研究の対象とする社会調査実習における学生スタッフに関する調査の詳細を述べる。

### 3.1 社会調査実習における学生スタッフの調査

2020・2021 年度は、遠隔授業となり、グループワークが見えにくくなったこともあったため、特に学生スタッフの重要性を感じたことから、前期・後期の最終授業で、「遠隔授業における学生スタッフ制度について、良かった点」「遠隔授業における学生スタッフ制度について、改善点」を調査している。また学生スタッフに伝えることを示しながら、「学生スタッフへのコメント」も尋ねている。調査対象は当日の受講者であり、クリックアプリアンサー (respon, 2022) を用いた記名式での調査である。2020 年度はその多くをオンラインで授業を行い、2021 年度はオンラインと対面授業が半々であり、現在の 2022 年度は対面授業である。この 3 年間の授業形式の違いも含めて今回データの検証を行う。

#### (1) 2020 年度後期「先輩スタッフ制度への良かった点」について

回答者 57 名に対して、全回答をユーザーローカル (2022) にて、テキストマイニングをした結果、図 1 のようになった。ワードクラウドをみると、大きく中心に「聞きづらい」があるが、これは「直接先生に聞きづらいことやちょっとしたことでも聞いてよかった。」「初めは少し聞きづらいのかなと思いましたが、先輩方から何か聞きたいことある? と声をかけていただいたことで、聞きやすかったです。」など、好意的なものであり、その他にも、ブレイクアウトのときの話や気軽に質問できた点など、制度として、有益であったと考えられるコメントが多かった。

#### (2) 2021 年度後期「先輩スタッフ制度への良かった点」について

回答者 63 名において、全回答をユーザーローカル (2022) にて、テキストマイニングをした結果、図 2 のようになった。ワードクラウドをみると、一番中心に大きく「聞きやすい」があり、そのほかに「アドバイス」や「質問」「議事録」などの言葉が並んでいる。細かく見れば「わ

かりやすい」「話しかけやすい」「決めやすい」などの言葉も多く見受けられる。「先生」という言葉もあるため、細かく原文を参照すると、「質問する時、先生がなかなか来れない時でも先輩はすぐきていただける」「先生だけだと、質問したい時に質問できないという状況が生まれていたと思うので、先輩スタッフ制度があつてとても助かりました。また、歳も近いため、先生よりも気軽に相談できたところはとても良かったと思います。」「先生に尋ねに行こうか迷っていた些細な疑問点を簡単に聞ける。2 人いてくれたおかげで 2 つのアドバイスがもらえた。」などがあり、おおむね好意的な意見も多かった。

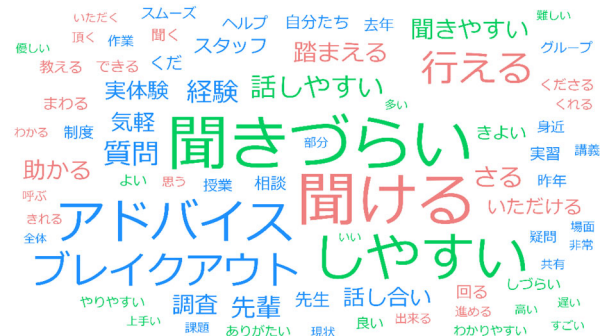


図 1. 2020 年度「先輩スタッフ制度への良かった点」

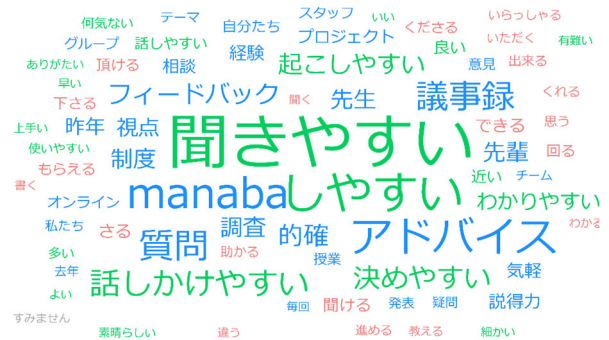


図 2. 2021 年度「先輩スタッフ制度への良かった点」

これらの 2 年間の比較においては、受講生も学生スタッフも異なるため、完全な比較はできないことに注意されたい。なお同年度における良かった点と悪かった点のコメントの比較を含め、詳細については当日会場にて紹介する。

## 4. おわりに

本研究では社会調査実習というグループワークが主となる授業での学生スタッフの効果について、遠隔授業時の比較も含め、検証した。これらの分析を通じて、よりよい制度の構築を検討する。

## 参考文献

- (1) 社会調査協会：社会調査協会公式ホームページ、<https://jasr.or.jp/> (2022) (最終確認日：2022 年 6 月 30 日)。
- (2) ユーザーローカル：AI テキストマイニング (<https://textmining.userlocal.jp/>) (2022) (最終確認日：2022 年 6 月 30 日)。
- (3) respon：respon 公式ホームページ、<https://respon.jp/> (2022) (最終確認日：2022 年 6 月 30 日)。